TAC税理士講座

～ 2026冬 オンライン特別セミナー ～

ミニ税法・科目別分析

固定資産税



1 科目の特徴

固定資産税は、土地、家屋、償却資産（例えば、機械や船舶など）を保有している事実に対して課される税金です。このうち、償却資産は事業用のものだけが課税対象ですが、土地、家屋については、個人の住宅も課税対象になりますので、大変身近な税金であると言えます。

なお、固定資産税は地方税の中でも、市町村税に該当するものであることから、原則として市町村が課税を行うことになります。

また、保有能力に対して課されることから、基本的には価格に税率を乗じることで計算されるため、計算構造が単純です。

固定資産税は、課税権者である市町村が税額を計算し、納税通知書を送付するという方法（賦課課税方式）により課税がされます。そのため、国税などと比較して、実務で固定資産税の知識を使う場合は限られております。

2 本試験の特徴

(1) 割　合

理論50点、計算50点

(2) 理　論

理論マスターの題数は26題であり、本試験に必要な題数は20題前後です。なお、ここ数年応用理論が出題される傾向にありますので、暗記だけでなく、応用理論対策が重要となります。ただし、応用理論は過去問と同じ傾向の問題が出題され、また、事例問題が少ないため、対策は他の科目と比較して容易です。

(3) 計　算

出題は、土地・家屋の計算１題と償却資産の計算１題の計２題が一般的です。いずれにしても特殊な論点が出ない限りは、計算では最終値を合わせることが求められることになりますが、近年の本試験では比較的容易に最終値が合わせられる平易な問題が出題されています。

3　このような方にオススメ

・興味をもって学習を進めたい
・不動産関連の仕事をしたい
・計算が得意
・事例理論が不得意

4　１月入学 速修コース

基礎から学習を始め、７ヵ月間で本試験レベルの実力まで引き上げる短期集中型のコースです。１月～４月までは本試験の出題実績等を勘案して、頻出論点・重要度の高い論点を中心に学習することで、短期間で合格に必要な知識の習得を目指し、５月以降（直前期）は、多くの演習問題を解くことで実践力を養い本試験に臨みます。

	基礎・応用期（１月～４月）	直前期（５月～７月）
input	●基礎・応用講義（180分×12回）	●直前対策講義（180分×４回） ●合格情報講義（180分×１回）
output	●実力テスト（180分×４回）	●実力完成答練（180分×４回） ●直前予想答練（180分×１回） ●全国公開模試（１回）

＜学習上のポイント＞

・復習は計算優先
・計算は最終値が合うまで練習
・理論は過去問の確認が重要